

高知県において防災教育講演を行い、小中学校における学校と地域の連携による学校防災の取組みを視察しました(2016/1/31-2/1)

テーマ：防災教育、学校安全、南海トラフ地震

場所：高知県警察本部大ホール、高知県中土佐町立久礼中学校、高知市立昭和小学校、南国市

2016年1月31日、高知県教育委員会、高知県警察が主催した高知県防災教育推進フォーラム・子ども防災フェアにおいて、佐藤健教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）が「わたしの防災教育・復興教育との関わりと実践」と題する講演を行いました。フォーラムには、県内小中学校の教職員、一般参加者等、約100人が参加いたしました。

佐藤教授の講演では、東日本大震災の震災教訓として被災した沿岸部の学校の震災当時の津波避難対応事例の紹介や内陸部における地震による建物被害の事例とともに耐震補強、耐震基準、室内散乱と非構造部材の耐震化の重要性についても言及されました。また、避難所等開設後の安全確認と実際の東日本大震災での避難所運営について町内会や小学校の取組事例、仙台地域防災リーダー等を紹介されました。また、フォーラムでは、高知工科大学の防災ボランティア団体による防災寸劇や、高知県の学校防災や県警の取組み報告、防災教育の実践事例の取組みが実践校の教員や児童生徒らによって紹介されました。

2月1日、佐藤健教授と桜井愛子准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）は高知県教育委員会学校安全対策課の山本英明チーフとともに、町内の全小中学校が文科省の推進するコミュニティ・スクールに指定されている中土佐町を訪問し、中でも防災教育に熱心に取り組む久礼小学校・久礼中学校からお話を伺いました。久礼小学校では、学習支援における学校と地域の連携に先立ち、地域合同避難訓練や津波避難場所の確認等の防災活動を通じて、学校と地域の連携を図っています。久礼中学校では、県内各地から通勤する教員が不在の際に備えて、中学生が主体となって避難を行い、避難場所では自主防災会の大人たちと協力できるようになることを目指した津波避難訓練や、収容避難所に指定されている同中学校での中学生による避難所運営訓練を中土佐町の危機対策課と連携して行っています。

その後、内閣府地区防災計画モデル事業に取り組む高知市下知地区の昭和小学校を訪問しました。学校区が河川に囲まれた同地区では、南海トラフ地震による津波で長期浸水が予想され、発災時には市が指定する津波避難ビルに避難することになっています。地区防災計画の推進役である下知地区減災連絡会や昭和小学校関係者から、校区津波避難計画や小学6年生の児童による防災マップづくり、社会科における地域学習や災害の位置づけ等についてお話を伺いました。最後に、南国市において大湊小学校南タワー（津波避難タワー）を視察しました。

高知県では、東日本大震災以降、南海トラフ地震を想定して、近年、急速に学校防災の拡充が進められています。過去には約100年に1回南海地震を経験する高知県では、現在の小中学生が大人になってから南海地震を経験することを想定して、様々な学校防災活動が展開されています。その一方で、日頃、あまり地震を経験しない地域でどのようにして学校防災活動を持続発展させていくかが課題となっています。学校と地域が連携し、地域に根ざした地域学習の一環として、息長い学校防災活動の継続が求められています。



高知県防災教育推進フォーラムでの講演の様子



南国市大湊小南タワー（津波避難タワー）



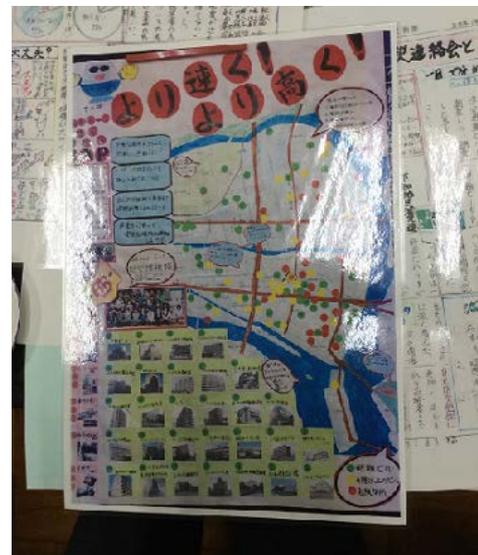
中土佐町立久礼中学校でのヒアリング



正門での津波危険表示



高知市立昭和小学校でのヒアリング



6年生防災マップ